



基本デザインは踏襲されているものの、クーペとセダンとはフィッティングが異なるため、すべてゼロベースからの設計。ホイールは、クーペに19インチを、セダんに20インチを装着する。



フロントからサイドにかけて、緩やかに切れ上がるデザイン。セダンがドア下端にとどまるのに対し、クーペではドア後方で下端ラインを越える。大きく設計が異なるポイント。



スポーツ感を纏うカーボンのキドニーグリル。クーペは1ピースで、セダンは2ピースで構成される。



デザインのしぼりをなくし、さらにMスポーツユーザーへも対応するため、オリジナルのフォグランプを設定。またそうすることで、フォグをキャンセルすると点滅するエラーを解消。デイトライトは提供価格を抑えるため、1つのLEDでレンズを照射する仕組み。



サイドステップやビラーにアクセントとして、カーボンシートを施工。ルックスに抑揚を生み出すと共に、統一感を持たせている。



ブラウンレザーのシートカバーは、ダイヤモンドとホワイトバイビングで高級感を演出。



両車ともトランクスポイラーをラインアップするが、セダンではナンバーポケットにもカーボンのガーニッシュを設定する。



AVANT Body KIT (セダン・クーペ共通)

FRONT BUNPER (FOG LAMP付き)	9万5040円
SIDE STEP SPOILER	7万3440円
REAR BUNPER (LED CENTER LAMPKIT付き)	9万5040円
3P SET (F/S/R)	25万3800円
LED DAYLIGHT KIT	1万800円
KIDNEY CARBON GRILLE	3万4560円
TRUNK SPOILER (CARBON)	4万5360円

EXTERIOR PARTS / AVANT JHI PERFORMANCE BRAKE SYSTEM

Fr:BIG6POT+380mm FLOTING ROTOR KIT (PAD/HOSE付き)	36万7200円
Fr:BIG6POT+356mm FLOTING ROTOR KIT (PAD/HOSE付き)	34万5600円
Rr:6POT+380mm FLOTING ROTOR KIT (INNER DRUM/PAD/HOSE付き)	36万7200円
Rr:4POT+356mm FLOTING ROTOR KIT (INNER DRUM/PAD/HOSE付き)	34万5600円
VARIABLE VALVE FULL EXHAUST PIPE&102mm Slash cut Titanium Coating Tail MUFFLER For 335i RHD (For Competition)	25万9200円

デイトライトの設定で今風のルックスに
バンパーとブレーキで完全コーデ



SPECIFICATION

●ベース車: BMW335i(E92) ●ボディカラー: AVANT BODY KIT ●タイヤ: PAVS10MURAS 9(19) × 9.0J ●タイヤダン: PIRELLA P ZERO ●ベース車: BMW335i(E92) ●ボディカラー: AVANT BODY KIT ●タイヤ: PAVS10MURAS 9(19) × 9.0J ●タイヤダン: PIRELLA P ZERO ●ベース車: BMW335i(E92) ●ボディカラー: AVANT BODY KIT ●タイヤ: PAVS10MURAS 9(19) × 9.0J ●タイヤダン: PIRELLA P ZERO ●ベース車: BMW335i(E92) ●ボディカラー: AVANT BODY KIT ●タイヤ: PAVS10MURAS 9(19) × 9.0J ●タイヤダン: PIRELLA P ZERO

トータルコーディネートを実現するチューンシステム



マフラーのフィニッシャーには、チタンとカーボンを用意。ブレーキシステムはローター径で純正比30mmもしくは50mmアップが可能。クーペとセダンのどちらにも、全サイズを装着できる。

「アラフォーがカジュアルに着こなせるブランド」というコンセプトでシリーズ展開するアヴァント。往年のクルマ好きのために、ブレーキやサスペンションキット、エキゾーストシステムまでのすべてをラインアップ。「40、50代の人が乗っていても違和感を覚えないデザインに仕上げました。エアロだけではなく、トータルコーディネート提案するためのブレーキもオリジナルです」と語るのは同社代表の吉川氏。「特に335iモデルにしたのは、M3じゃなくても十分に速い」という意味を含め、トータルバランスを作りたいと思ったからです。デビューから数年が経過し、ノーマルでは物足りなくなってきたE90 E92シリーズ。まるで、新型のようなルックスを演出できるというのはフルバンパータイプならではの魅力だ。製作で特に意識したというのがフィッティング。研究のため純正車両を2台用意してフィットポイントをチェックすると、やはり曖昧。「ちゃんと付く設計」というのが、まず第一のテーマだった。デザインについては、厚みを出さないよう配慮。「純正Mスポーツと比べても嵩はまったく変わりません。ですからアンダーライナーも純正が装着できます。そういう点で細部にまでこだわって作り込みました。」

その上で、フロントマスクの平坦なイメージを払拭するため一段前に出し、キドニーグリル周りを掘り下げてマッシブな雰囲気演出。アウトサイドに純正には設定のないデイトライトを設置することで、今風に、「エアロパーツの原点はそこなんじゃないかな」と考えています。

335i